

「救済の人」胸像に

神戸市出身のキリスト教社会運動家・賀川豊彦(1888～1960年)の活動を顕彰する同市中央区の「賀川記念館」に本人の胸像が設置され、21日に除幕される。災害ボランティアの先駆けとして、関東大震災の被災地で救済活動に奔走した賀川。同館では「自然災害が各地で相次ぎ、阪神大震災20年前にした今、来館を救済活動や献身の精神について考えるきっかけにしてみたい」としている。(浅野友美)



兵庫区生まれの賀川は4歳の時に両親が相次ぎ病死。10歳代でキリスト教に入信し、1909年から、神戸のスラム街で伝道と社会的弱者の救済活動に身を投じ、後に「コープこうべ」の前身「神戸購買組合」を設立した。

23年の関東大震災の3日後には現地入り。被災者に必要な物資を調べて神戸から調達するなど災害ボランティアを实践した。ノーベル平和賞や文学賞の候補にもなった。

同館は賀川の死後の63年、

貧者のため、関東大震災で奔走 賀川豊彦

記念館 21日除幕

その精神を次代に伝えるためオープン。年間約4000人が訪れる。昨年の開館50周年を記念して、コープこうべなど労働、福祉分野の10団体が胸像制作費約100万円を寄付。川西市の彫刻家サプロウ・コスギ(小杉三朗さん75)に制作を依頼した。

日本生活協同組合連合会本部(東京)にある賀川の胸像も手がけたコスギさんは「ふっくらとした手のひらで人々を包み込む、賀川の心の温かさを感じてほしい」とプランを

練り、石こう型に漆で浸した麻布を貼り合わせる「脱活乾漆造」の技法で、高さ1・9尺、幅0・6尺、奥行き0・6尺の胸像を完成させた。

今年9月17日に耳下腺がんのため、61歳で亡くなった賀川の孫の賀川督明・同館館長も、胸像の完成を心待ちにしていたという。

同館の西義人理事は「自身自身を顧みず、他人の救済に身をささげた賀川の生き方に学ぶことで、何か得られるものがあるのではないか」と話している。

除幕式は21日午後5時から同館で行われる。入館料は一般300円、学生100円。問い合わせは同館(078・221・3627)へ。



①穏やかなほほ笑みを浮かべた生前の賀川。コスギさんはこの写真を参考に胸像を制作した＝賀川記念館提供②「周囲を温かく包み込んだ」賀川の人柄をしのばせる胸像(同館で、左は西参事)